

表彰式では、AMD Aボランティア センター・センター長の小池彰和さんが「国際協力とは？～AMD Aの立場から」と題して記念講演。「ボランティアを楽しむことが大切で、国際協力 要旨を紹介する。

「国際協力とは？～AMD Aの立場から」

AMD Aボランティア センター・センター長 小池彰和さん

山陽新聞桃太郎賞を受賞した皆さんは、音楽や踊り、スポーツ、地域環境の保全や美化、リサイクル運動、海外の恵まれない子どもたちへの支援などさまざまな活動をされています。活動は、仲間や先生、保護者、地域の人が支えてくれていることでしょう。自分の（自分の）地域社会のために、自分の意志で活動されることは、意義深く、楽しいことです。

世界的な医療ボランティア AMD Aは、戦争や地震、津波、洪水などの自然災害や人的災害の被災者に対して、医師や看護師らを一いち早く現場に派遣して、けがの治療や病気の診療、感染症発生予防、緊急救援物資の配布などを行うボランティア団体です。AMD AはThe Association of Medical Doctors of Asiaの略称です。AMD Aの本部は岡山市にあります。AMD Aの本部は岡山市にありますが、二十九カ国に支部があります。支部は、AMD Aの

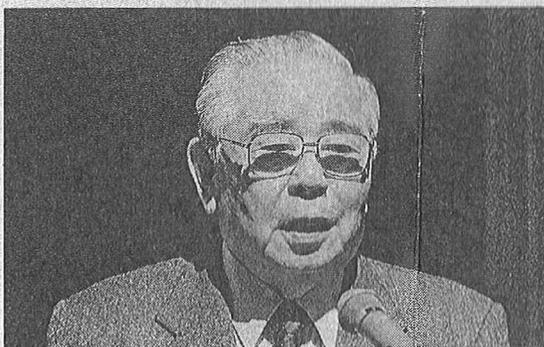


ブータン難民診療所

活動に賛同する海外の医師らが、自発的に結成したボランティアグループです。

救援活動を行う諸外国は、言葉や習慣、食べ物、医療の方法も異なります。万が一、災害などが起こった場合は、日本から派遣された救援チームと一緒に、現地に近い支部の医師らが救援活動に当たると、国際的

自分の意志で無理なく活動



な医療活動をしています。これは大きな助けになります。支部をさらに広げていきたいと思えます。これまで、世界約五十カ国で百回以上の救援活動をしてきました。国内でも、阪神淡路大震災、新潟県中越地震、昨年の中越沖地震でも救援に駆け付けました。こうした活動が世界的に認められ、一昨年、国連の経済社会理事會から、日本の医療ボランティア団体

唯一、「総合協議資格」を与えられました。スイスのジュネーブにある赤十字国際委員会と同じものです。

人道援助三原則

AMD Aが大切にしているものに三つの重要な原則（人道援助三原則）があります。一つめは、困った時はお互いさまの気持ちを大切にすることです。これは、誰もが持っている気持ちです。二つめは、違いを乗り越えるということ。皮膚の色、目の色、髪の毛の色、言葉、文化、政治形態、歴史も異なります。これらの違いを乗り越え、協力し合わなければならぬからです。

三つめは、援助を受ける側にもプライドがあり、支援を受ける人の気持ちを大切にしようということ。すばしば、支援者が降りやすいことですが、支援すれば必ず喜ばれると思いがちです。支援を受ける人が、どう受け取るのか大切なことです。見ず知らずの医療団体が、ボランティア活動してくれるのだらうか、と懐疑心をいだくのは当然です。親切の押し売りになってはならない

助け合い人として当たり前



スマトラ沖地震支援活動

困っている人や恵まれない人々を援助することだと考えがちです。これは、百点満点の五十点にすぎません。国際協力では、助けられる場合があることも知っておかないといけないでしょう。

今の日本は、戦後の復興後、助けられる国から助ける国の立場に変わりました。六十三年前の東京大空襲当時、私は中学三年生でした。翌年、田舎から東京に戻りましたが、食べ物がありませんでした。こうした時に、米や脱脂粉乳、小麦粉などの食料援助や学童服用の羊毛、乳牛、学用品なども届けられました。学校給食も始まりました。医療面では、発疹チフスという感染症が大流行したとき、DDTという薬品で、早期に收拾できました。医療従事者は米国研修で最新の医療を学び、六千五百人も留学生も渡米しました。

戦後復興のための国際援助額は、年間二・五兆円以上と言われています。世界で第三位の援助大国・日本の年間援助額が、百六十の国に対して約八千億円と比較すると、当時の対日援助の膨大さがわかるでしょう。さらに、地震や洪水など風水害時にも必ず、支援の手が差し伸べられました。世界初の新幹線とそとのための黒部第四発電所、高速道路の一部を、世界銀行から借りたお金

です。相手の立場に立ち、被災者にとって、何が喜ばれるのか、将来、何が大切なのか、考えてあげることが、相手のプライドを大切にすることなのです。

困ったらお互いさま

国際協力や国際貢献とは何でしょう。国際協力とは、海外の

で賄っています。一九九〇年に世界銀行の借入金すべて返済し、日本は完全に援助国の仲間入りを果たしました。「助けられる日本」から、「助ける日本」に変わったわけです。

幅広い緊急医療活動

AMD Aの具体的な活動を紹介します。ネパールでは多くのブータン難民を七つのキャンプに分けて受け入れていますが、この中の一つが三月一日に火事になり、約九千人が被災しました。AMD Aではネパール支部とともに負傷者の手当て、毛布や食料などの援助物資配布、生活資金の提供など緊急救援活動を行いました。もともとブータン難民支援は二〇〇一年から始めていましたが、今回の火災で難民はさらさら生活が強いられるのです。なお、ネパールはAMD Aの一大活動拠点で、以前から総合病院と子ども病院などを運営しています。

〇四年十二月二十六日、インドネシアのスマトラ島沖で発生した大地震と津波災害での緊急医療救援活動では、インドネシアとスリランカ、インド三カ国で活動。AMD A本部・支部十カ国から百二十一人が駆け付け、インドネシアの医学生ら百二十人がボランティアで参加し、AMD Aが始まって以来、最大規模の活動となりました。巡回診療や子どもたちへのワクチン接種、保健衛生教育、感染症予防教育、ゲームを交えた衛生教育、心のケアなど幅広い緊急医療救援活動を行っています。

きょうのお話で、ボランティアは、心を豊かにし、楽しいということだということ、国際協力とは、「困ったときはお互いさま」という助け合いで、人として当たり前のことだ、ということ、皆さんにお伝えしました。

こいけ・あきかず 1931年東京都生まれ。東京外国語大学卒業後、石川島重工業（現IHI）入社、船舶の輸出営業に従事。95年に岡山市に移住、97年からAMD Aの活動に参加、総務局長、会員・情報局長を経て、2002年シニアボランティアアドバイザーに就任。08年1月から現職。